

## 社会への恩返しを

東日本大震災地での作業を体験して

千葉県 川嶋（48歳）

私は、平成十三年に施設を終え、千葉県婦性会に入所しました。そして、この婦性会からの紹介で千葉市内の建設会社（㈱西船企業）で働くことになりました。建設現場での仕事は正直きつかったです。一緒に働く仲間が慣れない私をカバーしてくれたり、社長さんも色々相談に乗ってくれたりして、今年で丸、九年が過ぎました。この間、スーパーゼネコンでの特別教育や技能講習を受けさせて頂き、今では、職長・玉掛けの他にも七種類の資格を修得しました。働き始めて五年を経過した頃から公共事業での安全作業や工程表に基づいた全体の作業指示も消化出来る様に成りました。

今年三月十一日、東日本大震災が発生し、翌日にスーパーゼネコンの要請で私の会社から八名のメンバーが選ばれ、私達は一二日に仙台に向かいました。現地は見るも無残で今迄見た事の無い光景に然然としました。三月一杯で仙台地区の作業を終え会社に戻りましたが、五月二十五日から六月二十三日迄、今度は、福島原発での作業に取り組んで参りました。

何の因果か分かりませんが私は、妻や子供達に多大な心配と迷惑を掛けた過去に対して、今、償いの念を抱いています。これは、東日本大震災を現地で体験した私の偽らざる気持です。復興への道は、まだまだ先の長い事だと思えます

が要請があれば、これからも大いに貢献し、社会への恩返しのため頑張り所存です。

## 十五年目の社会復帰

仮釈放を受けて

被保護者（39歳）

私は八月に仮釈放を頂き、婦性会にお世話になることになりました。私の犯したことで、被害者やその御家族への多大な損失、受けなくともよかつた心痛を思うと、ただただ謝り続けていく事しか言葉も浮かびませんが、出来る事を一杯やっています。家族はもとより、刑務所施設の多くの職員に支えられ仮釈放がなされたこと云うことであり、決して私一人で、この社会復帰が得られたのではない事を忘れぬ様にしたい。そして、婦性会での生活は、多くの善意ある有志の方々によつて支えられている事を知りました。今まで以上に私の社会復帰には、数多くの見知らぬ人も居ること、又、そうした人達が偏見を持たず、社会人として復帰することを応援して下さいと云う事が、どれだけ私の不安を和らげ、前向きな希望を持たしてくれた事か出所するまでは、前科者はもう終わりと思っていたので、とても心強く感じました。私が、他の人から信頼・信用される様になる事が応援して下さった方々への感謝につながるのではないかと考え、これから先、まず、マイナスをゼロにすべく一歩一歩亀のごとくの歩みでも、しっかり、確実に普通の人となるべく、心を強く持ち、努力を続けていきたい。刹那的に生きるの

## 役員素顔



千葉県婦性会副理事長

君塚 淳氏

当会の副理事長に二年半前に就任して頂き、当会の賛助会員募集に多大なるご協力を賜り、現在では、多くの方の御理解とご寄附を頂いています。

ホンダ車の販売会社の社長、そして会長をも退任されました。今は、仕事ではなく、プライベートの旅行をされる事が多いようです。

いろいろな所からお土産を送って頂き、お礼の電話をかけると、まだその旅行先におられることが多いです。宅急便も早く届くのでしようが、先生もゆっくりと旅を楽しんでおられることと思います。

これまでの仕事、仕事、の人生から離れて、今は旅行を通じてのんびりとした人生を楽しまれていることを羨ましく思います。そして私も先生の様に旅をしたいと出かけてみる時もあります。

いつまでもお元気で楽しい旅を祈念申し上げます。

いつもありがとうございます。

（文 萱原）

